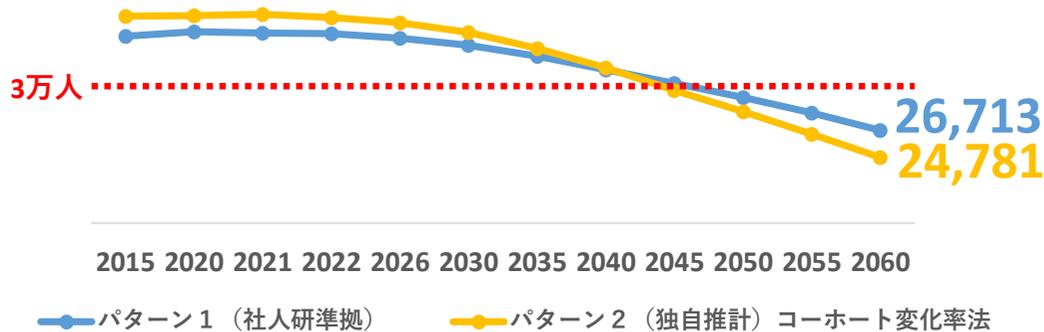


■将来人口推計 (P44)

令和2年度実施の国勢調査の結果速報が公表されたことから、将来人口推計に当たり、パターン1の基準人口を更新し、再度下記のとおり推計した。

推計の結果、2060年にはパターン1では26,713人（前回審議時：2062年に25,479人）となり、2060年と2062年と基準年が違うものの**大きな変化は見られなかった。**

パターン1	国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口(平成30年)」に準拠（基準人口は国勢調査）
パターン2 (独自推計①)	(コーホート変化率法)同じ年に生まれた人々の集団について、過去の実績人口の動勢から「変化率」算出し、それに基づき将来人口を推計（基準人口は住民基本台帳）



■第2次広陵町人口ビジョンに掲げる目標 (P47)

人口減少の克服と地域の活性化に向けた今後のまちづくりの主要課題を整理し、2060年に総人口3万人の目標達成のため、第2次広陵町人口ビジョンにおいて、3つの目標掲げる。

3つの目標

- 目標1 次世代が担う子どもが輝けるまち
- 目標2 地域が活性化するまち
- 目標3 生活基盤が充実したまち
誰もが安全・安心して暮らせる充実したまち

第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト1から3）の実施及び目標達成

2060年に3万人を維持

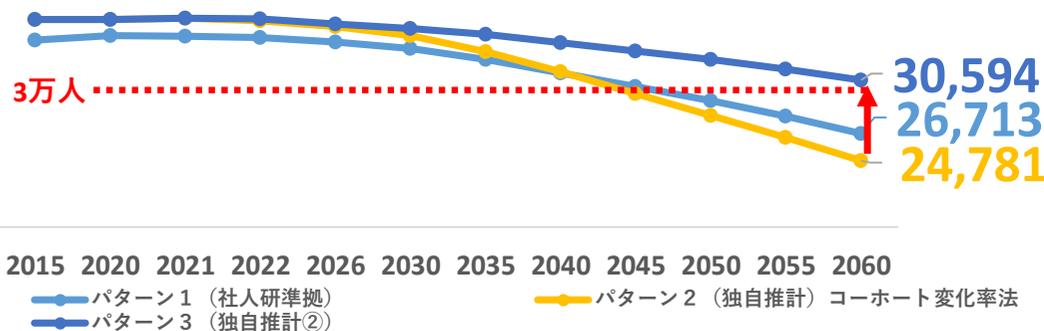
■3つの目標実現による将来人口の展望 (P49)

第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト1から3）を着実に推進し、20歳から39歳の若年人口を中心により多くの人々から「住み続けたい・住んでみたい」と選ばれる魅力のあるまちの実現を目指すことで、令和22（2040）年までに合計特殊出生率2.10を達成するとともに、純移動率を均衡（ゼロ）させ令和42（2060）年において人口3万人台が維持されることを**将来展望（パターン3）**として設定する。

パターン3では下記合計特殊出生率を使用

2022年	2026年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.45	1.59	1.59	1.85	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

○パターン3を追加した将来人口推計



○パターン3の年齢階層別人口の推移

